

パンのある幸せな食卓を

『プロのパン屋への道(8)〜トルネード(竜巻)の恐怖〜』

文 木村安兵衛

text by Yasube Kimura

オズの魔法使いというお話がありま

す。この舞台になったのがカンザスだと言われております。それくらいカンザスは竜巻で有名な土地なんです。ある日空は不気味を通り越して異常を感じる雰囲気を感じ出してしまいました。雲は暗く重く、辺りを覆い尽くしています。空気密度が高い厚い風がうなりをあげて吹いています。木々は幹の太さに関係なくしななって悲鳴をあげています。夕方にはついに雹が降り始めてきました。小学生の頃、雹が降ってきましたときは、その不思議な現象に喜んで傘をさして外で走り回った思い出があります。しかし今回の雹はそんな生易しい物ではありません。テニスボールを一回り小さくしたような大きさの水の塊が空から降ってきます。もちろん外に出ようなんて考えは初めから消えておりました。

窓から外界を覗きながら「車は壊れただろうな」「フロントガラスは絶対に割れたよな」「保険はどうなっていたかな」等々を考えるくらいしかできませんでした。

パリーン！というガラスの割れる音が聞こえてきました。何かが近所の窓にぶつかり割れたのでしょうか。とっさ

に映画『トルネード』で風に乗ってのこぎりの刃が部屋に飛び込んできたシーンを思い出します。ウェザーチャンネルのアナウンサーが興奮しながら竜巻情報を早口でまくしたてます。「カンザス北の竜巻と南の竜巻は引き寄せあっており、この場所で1つになる予想です。2つの竜巻は規模が大きいので皆さん避難して下さい」。アナウンサーが指を指す竜巻の合流地点は何と私のいるマンハッタン(カンザス)なのです。「避難」という言葉を目の当たりにして気ばかりが焦ってしまいます。先ず、どこに避難したら良いのでしょうか？カンザスにはハイウェイが走っておりますが南北にしかのびておりません。竜巻は南北よりハイウェイ沿いに迫っています。よって車での脱出はほぼ不可能という事になります。

学校に入学した時に受けるオリエンテーションで校内に竜巻用のシェルターがある旨の説明がありました。「学校に行きましょう！」。ルームメイトに声を掛け、決死の思いで雹の中に飛び出して車の運転席に飛び乗ります。

悪い事は続くようで、この日は日曜日で休校でした。一縷の望みに賭けて学校に行きますが誰もいません。もち

ろん鍵も掛っていて校内に入る事もできません。住んでいたアパートにもシェルターはあるようですが場所がわかりません。取りあえず最悪の場合に逃げ込むクローゼットを確認して食べ物、貴重品などを搬入します。その時にはつと気づく事がありました。明日は苦科目目化学のテストではありませんか。勉強するべきか、逃げるべきか悩みます。子供の頃に、空から悪魔の大王が降ってくるから勉強しない、なんて言った事を思い出します。

翌日は何もなかったかのような清々しい天気の下、化学のテストが行われました。

Profile

1969年生まれ。慶應義塾大学法学部卒業後、千代田生命保険相互会社に入社。その後アメリカで唯一のFDA(米国食品医薬品局)研究機関である米国立製パン研究所へ留学、ベーキングサイエンスを研究する。ニューヨーク、フランスにて修業を積んだ後、その腕前と経営センスを見込まれ、エリック・カイザーの在日パートナーとして、2000年に株式会社ブルーランジェリーエリックカイザージャパンを設立。2001年メゾンカイザー 1号店として東京・高輪に店舗をオープンし、2017年現在29店舗を数える。

